



北部医療センターだより

HIROSHIMA CITY NORTH MEDICAL CENTER ASA CITIZENS HOSPITAL

地方独立行政法人広島市立病院機構 広島市立北部医療センター安佐市民病院

〒731-0293 広島市安佐北区亀山南1-2-1 Tel 082-815-5211(代表) <https://www.asa-hosp.city.hiroshima.jp/>

ご自由にお持ち帰りください



はじめまして。病院長です。

この小冊子をお手にとっていただいた皆様、初めまして。

本年4月から北部医療センター安佐市民病院の第10代病院長に就任いたしました小野千秋です。どうぞよろしくお願いいたします。

ご存じのように当院は昨年の5月1日、可部南の地から現在地の亀山南に移転し北部医療センターの名称を加えて新しい病院として生まれ変わりました。この拙文を書いているのは4月の終わりですが、病院から太田川をはさんだ対岸の山には新緑が芽吹き始め古い緑とのコントラストが冴えわたっています。昨年もちょうどこのような時期に病院のお引越しをさせていただいたのがつい先日のように思い出されます。



おの ちあき
病院長 小野 千秋

さて、新しくなった病院内には最新のデジタル技術を用いた様々な設備を備えています。

私たちはこれからの働き手の減少をふまえて職員の労働環境を少しでも改善するため、また患者の皆様への高度医療を持続してご提供するため、今後も新たなデジタル技術を用いた病院の改革を進めていきます。

子供のころに読んだ手塚治虫のマンガのなかで未来の病院では人間ではなくロボットが患者の手術をしていましたが、現在ですでに手術用のロボットが活躍しているのは皆様ご存じかと思います。ただし現在のロボットは自動的に手術をしてくれるわけではなく、医師の目と手の補助となって、執刀医自らが操作するものです。またマンガの21世紀では高層ビルの間を縫うように建設された空中のエアチューブの中を車が走る様子が描かれていましたが、2000年から20年以上すぎてやっと大型のドローンのような空飛ぶ車が開発されるのか？という程度でそんな時代はなかなか来ないようです。

そもそもそんなたいそうなものは必要とされていないかもしれません。すでに自動車は単なる移動手段にすぎず、まずは自動運転で事故なく目的地に着ければそれでいいと多くの人が考えているのではないのでしょうか。この3年のコロナとの闘いで人が移動する機会は大きく減少し、会議で会うだけならオンラインでよいと考える人が多いのではないかと思います。

50年後、手術用ロボットがもっと進化した人間の代わりに手術を行う時代が来るのでしょうか。それともまだ人間が手術をしているのでしょうか。いや、他の治療法が開発されてそもそも手術を必要とする病気がすくすく少なくなっているかもしれませんね。

みなさんは機械に手術してもらいますか？それとも信頼できるあの先生に命をあずけますか？



はるか未来のことに思いをはせるのはひとまず置いて、私たち北部医療センターの職員はこれからも地域の基幹病院として安全で質の高い医療を提供し、みなさまとともに可部の地にあり続けます。新しい技術は積極的に取り入れて、持続可能な病院運営を目指していきます。

今後ともみなさまの変わらぬご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

副院長就任のご挨拶

今年度から副院長を拝命致しました加藤雅也（俳優と同姓同名）です。

私の主な担当は救急と教育、そして入院支援です。

私は2000年に循環器科医師として当院に赴任致しましたが、2005年に総合診療科を立ち上げ、平日日中の内科系救急患者様の診療を内科メンバー全員で行う「救急総合診療部」体制を立ち上げました。新病院となって新たに開設した地域救命救急センターは、救急科と救急総合診療部が縦割りなく一体となって救急診療を行う体制を基本理念としています。緊急入院の7割以上を高年齢患者様が占める救急現場

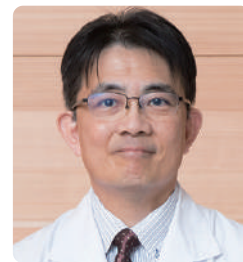
では、どのような疾患の患者様であっても幅広く対応し、医師だけでなく多職種で入院から退院までをサポートしなければ元の生活に戻して差しあげることはできません。救急部門担当の副院長として、安佐医師会の先生方をはじめ地域の医療者の皆様とも協力しながら、ひきつづき救急診療体制を整備して参りたいと思います。

またこれまで医師研修プログラムの統括責任者として初期臨床研修医や内科専攻医の教育体制を任されてきました。新病院では教育研修管理センターを立ち上げ、今年度からスペシャリスト看護師を育てる特定行為研修を開始しております。ひきつづきこれからの若い医療者、そしてスペシャリストの育成に尽力したいと思います。

さらに医療支援センター次長として患者様の入院支援に携わっております。多くの入院患者様を受け入れるには円滑なベッドコントロールが必要です。入院された患者様が治療後すぐに生活に戻れるかを早期に判断し、すぐには生活に戻れないようであれば必要な治療あるいは介護を継続していただくための病院や施設とのコミュニケーションをしっかりとって参りたいと思います。

私は亀山南小学校出身で、新病院のある亀山の地は私の故郷です。新病院がこの地域の皆様にとって信頼できる病院であり続けるよう頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

／亀山は故郷です／



かとう まさや
副院長 加藤 雅也

副院長就任のご挨拶

本年4月より副院長に就任致しました消化器外科の檜原淳です。がん診療と医療安全を中心に担当させていただいており、通院治療センターとTQMセンターのセンター長も兼務しています。

私は1990年に広島大学医学部を卒業し、同年広島大学原医研外科に入り、以来33年間でがんに対する外科治療および薬物治療に携わってきました。安佐市民病院には卒後4年目に赴任し、当時の岩森院長をはじめとする外科の先生方にご指導いただきました。その後、大学病院で消化管のがん（特に食道がん、胃がん）を中心にがん治療と研究に取り組み、2016年4月に再び安佐市民病院に帰ってまいりました。

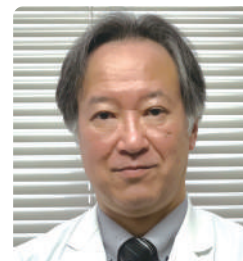
当院は2022年5月に新築移転し、北部医療センター安佐市民病院として生まれ変わりました。「がん診療」は旧病院の頃から変わらず当院の診療の大きな柱となっています。当院は広島県で3番目に多くがんの診断・治療を行っている施設です。新病院では手術室が増えたことで、以前より手術までお待たせする期間が短くなりました。また、最新の手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」が2台に増えましたので、より多くの患者さんに体への負担が少ない低侵襲手術が行えるようになりました。

また、新病院では「通院治療センター」が設置され、外来でお薬の治療や放射線治療を受けられる患者さんの利便性を考慮し、受付、診察、治療、相談が1つのセンター内でできるようにしています。

当院では患者さんに安心して気持ちよく治療を受けていただけるよう、2018年よりTQMセンターが設置されています。TQMとはTotal Quality Managementの略で、総合的質管理と訳されます。安全で質の高い医療を提供できるよう病院全体で取り組んでいます。

これからも地域の皆様に安心・安全な医療が提供できるよう努力してまいりますので、宜しくお願い致します。

／安全で質の高い医療を／



ひはら じゅん
副院長 檜原 淳

連携医療機関の紹介

安佐医師会病院の活用方法:「家に帰る」を支える病院とは

みなさん、旅行にいかれますね。旅行に行く時は、計画をたてます。どこに泊まって、どこをみて、何をたべて、何日に何時の新幹線で帰る。旅するのは、いきあたりばったりで出発するひともいますが、それでも、概ね、なにをみるか?くらいは計画しますね。人生は、旅です。みなさんの希望はびんぴんころりです。90歳くらいまでは、元気に旅行をして、ころりと死にたい。なぜ、コロリといきたいかといえば、それは、死ぬのが苦しいことがわかっているからです。では、さっさと往生したいかといえば、親鸞さんと言っておられるように、最後の最後まで煩惱に悩まされて娑婆の縁が切れてはじめて往生するのが、我々凡夫であると。

私のところにも、よく電話がかかってきます。姉のだんなの89歳のお父さんが、がんといわれたが、どうしたらいいのか?と。本人からの電話より、ご家族からの相談電話が圧倒的です。あまりご本人自身から相談を受けたことはありません。相談の内容は3大相談があります。がんといわれた。救急車で運ばれた。手足がしびれて歩けなくなった。医者からこう言われた時、救急車を呼んだ時、突然、旅が始まるのです。

巷には、80歳まで健康に生きる方法、100歳でも元気である方法、断捨離、孤独死、などいわゆる終活本があふれています。でも、みなさんは、最後に遭遇する旅がどんな旅か、どんな計画かはご存知ない。医者から突然言われたり、ある日突然症状があらわれて旅が始まります。突然、旅が始まると、みんな狼狽えます。「なんで私が」、怒りもうまれます。医者の説明も上の空になります。それでも、突然はじまった旅は、いままで見たことのない速さでジェットコースターのように急展開をはじめます。みなさんは、「その時になってみんとかわらん」「その時になったら考える」と言われますが、その時がきたら、頭は真っ白、自分では判断できず、ほとんど、ご家族が判断することになります。

自分の両親、夫の両親、自分の妻、夫にその時が訪れた時、少しでもあわてないように、少しでも事態を落ち着いて考えられるように「終活する前にしておくべき病院の仕組み」という本を上梓しました。読みやすいとなかなか好評です。

この本を元に、みなさんの旅がどのように展開し、その中で「安佐医師会病院」(元の安佐市民病院があったところの病院)をどのように利用するかを、みんなで考え質問に答える会をはじめました。

お寺(5/21、小河内安楽寺上段、5/28 川内、明円寺下段)や、JA、民生委員の集まり、敬老会などを利用していただき、「安佐医師会病院」を上手に使うって安心!を実現していこうと考えています。

説明会をご希望の方は、安佐医師会病院に是非ご依頼ください。きっと目から鱗の知恵をいただけます!

6/26木曜日は寺町本願寺別院で13:30よりお話しさせていただきます。是非お集まりください。

＼ぜひお集まりください／



安佐医師会病院 病院長
前北部医療センター
安佐市民病院病院長
どて けいこ
土手 慶五



精神科病棟 開棟

2023年1月に精神科病棟(20床)が開棟しました。

精神科病棟では、うつ病、統合失調症などの精神疾患(こころの病気)の入院治療や、他の診療科と連携しながら精神疾患を持つ患者さんの身体の治療を行っています。精神疾患はこころだけでなく身体の症状を伴うことがある一方で、身体の病気にこころの症状を生じることも少なくありません。総合病院である当院には多くの診療科があり、身体に関する専門的な検査や治療も受けられます。各診療科の協力を得て、こころと身体の問題の両面に対応するようにしています。

精神科では、患者さんとの対話と行動の観察によって病状を理解します。患者さんの苦悩を和らげるため、医師と看護師のみならず、臨床心理士、薬剤師、作業療法士、栄養士などを含むチームで関わっています。生活環境の調整は欠かすことができず、精神保健福祉士(精神科ソーシャルワーカー)がサポートします。これら全ての職種が参加するカンファレンスを定期的に行い、それぞれの情報を持ち寄り、治療に活かしています。

病棟の一日は、医師と看護師のミーティングで始まります。日中のデイルームでは、ラジオ体操、リハビリテーションや作業療法などを行い、生活リズムを保つようにしています。患者さんが落ち着いた環境の中で過ごし、退院を迎えられるようにチームで取り組んでいます。また、他の診療科と同様に、かかりつけや地域の先生方との連携も大切にしています。急性期の治療を当

院で担当し、その後の治療を地域の先生に行っていただけるように積極的に橋渡ししています。

繋がりを大切に、多角的な視点を持ち、切れ目のない医療を提供できるよう、スタッフ一同、心がけております。

どうぞよろしくお願いいたします。

＼繋がりを大切に／



精神科主任部長
えらび ひさゆき
撰 尚之



「終活する前に知っておくべき病院の仕組みと役割」を出版しました。

2023年4月12日に当院監修の紹介本「終活する前に知っておくべき病院の仕組みと役割」が発売されました。2022年5月の移転を記念して企画された本書ですが、最初にできた原稿はたくさんの文章が並び、専門用語が飛び交って各診療科の最新技術を紹介する“よくある病院紹介本”でした。そのような本ではなく、“イザ”という時の助けになるような観光ガイドブックの病院版を目指して、完成目前ですべてを白紙にして一から作り直すことになりました。

本を制作するチームを立ち上げて、そもそもこの本を読んでもらいたい人はどんな人か、どの地域の人に読んでもらいたいのか、というところからもう一度考えて、分かりやすい本になるように全体の構成からページ配分、デザインなども自分たちで意見を出して制作を始め

ました。私たちも本を作る作業は初めてで色々としりごみしましたが、日頃の診療業務もある中で作業は締め切りも相まって正直大変でした。そんな中でも各担当者が協力しながら妥協せずに「わかりやすさ」を追求してできたのがこの本です。また私個人にとってもこの本の制作を通して病院の仕組みなど知らないことをたくさん学び、普段は関わることにないスタッフとも交流する大変貴重な経験となりました。

“イザ”というときに病院は選べません。突如自分や家族、身の回りの大切な人に起こる“イザ”の前に、“イザ”の時の病院や“イザ”の時にどうすべきかを知っておいてもらいたい、その思いでこの紹介本を制作しました。とにかく読みやすくすることを念頭にたくさんの病院スタッフが一から制作に関わってできたこの本は皆様の手に取っていただくにふさわしいものになっていると自負しています。こちらの本は広島県内の書店やオンラインショップで販売しておりますので是非ご覧下さい。

＼ぜひご覧ください／



放射線技術部
広報委員会 副委員長
もり まさよし
森 正好



PICK UP!

公式YouTubeチャンネル

最新の技術紹介やWEB講演会などの医療従事者向けの動画だけでなく、施設紹介や検査の流れなど当院を受診される患者様や受診を検討されている患者さんの役に立つような動画を発信しています。



PICK UP!

公式Instagram

皆さまに親しまれる病院を目指し、院内や院内スタッフの活動、季節の風景、イベントの様子など、当院の特徴や魅力などを随時発信しています。あたたかい「フォロー」&「いいね」お待ちしております。

